

# うきうき・わくわく こころはずむ幼稚園

太子町立幼稚園



○子どもたちがわくわく・どきどきする気持ちで遊びに熱中する中で、主体性を身につける。

○自然や身近な動植物に直接触れる体験的な活動に重点を置き、その中で子どもの好奇心や探求心を高めていく。

○三歳児、四歳児、五歳児の学年の枠を外し、異年齢での活動を大切にする。

○その中で、五歳児は、リーダー性や年下の友だちに対する優しさや身につける。また、三歳児や四歳児は五歳児に憧れを持ち、進んで協力する態度を身につける。

非認知能力を高めていく取り組み

## 5歳児の取り組み

### 粘り強く、試行錯誤する力



#### アゲハの幼虫を発見！

ミカンの木にアゲハの幼虫を発見した子どもたち。「葉っぱいっぱい食べてる！」「捕まえたらかわいそう」と、捕まえずに、そのまま木で成長していく様子を見守ることにしました。黒くて小さかった幼虫が、大きな緑色の幼虫へと変化したことに驚いた子どもたちは、毎日、幼虫を見に行くようになりました。しかし残念なことに、雨が続いた連休明け、幼虫はいなくなっていました。子どもたちは「雨が駄目だったのかな？」「逃げたのかな？」と残念そうにしていました。



#### 雨から幼虫を守ろう！

後日、別のアゲハの幼虫を発見した子どもたちは、「今度は雨から幼虫を守ってあげたい！」と気持ちが高まりました。そこで、みんなでどうしたらよいかを話し合うと「虫かごで飼う」という意見も出ましたが、「雨が苦手な幼虫の為に、屋根を付けよう」という意見にまとまり、子どもたちと雨との戦いが始まりました。一旦、屋根作りは成功したものの幼虫が屋根のない所に移動してしまうなど、試行錯誤の日々は続いていきました。

## 5歳児の取り組み

### 友だちと協力する力を育む



#### 『むしむし村遊び』作り

子どもたちからの提案で、大好きな虫の世界をイメージしながら、いろいろなお店を作っていくことになりました。

最初は、自分がやりたいという気持ちが強く一人で作業進めることが多かった為、チームで話し合う場を設けました。遊びのイメージを共有したことがきっかけとなり、作る物を相談したり、困っている友だちに「手伝おうか？」と声を掛け協力したりする姿が見られるようになっていきました。

出来たお店で遊ぶ中、レストランの注文が殺到し一人では対応しきれない状況になりました。どうすれば良いのかみんなで相談し、一人では大変だということ、役割分担するなどの話し合いが行われ、お店が完成しました。



#### 保護者や異年齢の友達を招待

友だちと協力して遊びをすすめられるようになったことで、保護者や異年齢の友達を招待し、自分たちの作ったお店で遊んでもらう満足感を味わうことが出来ました。活動を通し、友達と協力する楽しさや大切さを学ぶ機会となりました。

## 4歳児の取り組み

### 相手の気持ちになって考える



#### ツマグロヒョウモンチョウの幼虫と遊ぶ様子

園庭のプランターに集まる幼虫に興味をもった子どもたち。小さなバケツに、幼虫とエサになる花をちぎって入れるものの、花はすぐに枯れ、幼虫も元気がなくなっていました。そこでどうすれば幼虫も花も喜ぶのかを考え話し合う場を設定しました。



#### お花レストランで幼虫を観察する様子

幼虫を逃がしたくない子どもたちは幼虫が住んでいたプランターを保育室に持ってくることにしました。プランターから幼虫が逃げるのではないかと、心配しながら降園した子どもたちでしたが、幼虫は翌日もプランターで元気にしていました。子どもたちは喜び、大量の幼虫を集めてきましたが、プランターの花を食べつくすと次々に幼虫が逃げ出すようになりました。その度に新しいプランターを運び、幼虫を移動させ、子どもたちによるお引越し大作戦が行われました。

この活動を通し、子どもたちが生き物に寄り添い大切に扱うようになりました。また、毎日観察する中で、幼虫が変態していく過程を見ることも出来、様々な発見へと繋がっていきました。

## 3歳児の取り組み

### 関わりを楽しむ



#### どこに穴を作る？…ここ！

砂場で遊んでいた子どもたち、水を入れるとどうなるだろう？と泥んこ遊びが始まりました。砂場に置かれた大きなタライに、一人がバケツで水を運び出すと「一緒に運びたい！」と自分が使うバケツを取りに行き、何度も水を汲みに行く姿がありました。一人から始まった水汲みはやがてクラスみんなに広がり、タライに満タンの水を運ぶことが出来ました。



#### 水たまり、気持ち良いね

砂場に作った大きな穴の中にどんどん水を入れていく子どもたち。水がたまと「温泉みたい！」と言い、次々に水たまりの中へ入って行きました。砂と水が混ざり合う感触を味わい、友達と顔を見合わせては歓声をあげ、楽しい気持ちを共有していました。友だちと力を合わせることで、出来たという達成感を感じられる活動となりました。

## 幼小交流



2年生とサツマイモ植え



七夕交流

#### 憧れの存在を身近に感じる

小学生との交流では、少人数のグループでの活動を楽しみました。自分たちより年上の小学生に少し戸惑う姿も見られたが、優しく声をかけてもらい、丁寧に教えてもらうという経験をすることが出来ました。交流前から小学生に憧れる気持ちの大きかった子どもたちではありましたが、「この前、一緒にお芋植えたお姉さん・お兄さんみたいになりたい」など目標が具体的になりました。自分たちも同じようにやってあげたいという気持ちが大きくなり、自分たちがやってもらったことを、同じように真似る姿も見られるようになりました。

## 大切にしている点

#### 子どもの「やりたい」を実現させる

町立幼稚園では、普段の活動の中で子どもたちが感じる「なんでだろう？」「ふしぎだなあ？」「やってみたいな！」という気持ちを大切にしています。子どもたちの質問や疑問にすぐに答えるのではなく「どうしてだろう？」と一緒に考えることで子どもたちが、考える楽しさ、答えを見つける喜びを味わい、もっと知りたいという意欲がどんどん湧いてくる保育を目標としています。その為には、子どもたちが中心となって話し合いながら、活動を進め、教え合える関係を築くことが重要であると考えています。

